

フアルマクリエ神戸

植物由来原料の提案強化

シコニン 保湿クリームも開発

バイオベンチャー企業のフアルマクリエ神戸(神戸市中央区、谷口泰造社長)は植物から抽出したシコニン、コンナルス市場展開を加速する。大阪ソーダと組んで化粧品原料として展開しているシコニンでは独自のブランドの保湿クリームを開発して「シコニンの認知度を上げることを含めた市場戦略を強化する」(谷口社長)。大手素材メーカーと組んで、肌に優しい衣料製品開発にも乗り出す。コンナルスは抗糖化作用を活用したサプリメントや食品原料としての供給拡大に乗り出す。

コンナルスはアミノ酸の結晶とされるコンナルス・ルベから抽出される成分で、フアルマクリエ神戸はアミノ酸の企業と独占契約を結び輸入販売している。コンナルスは血中の糖がたばくと反する糖化を防ぐ効果がある。米が3月までに動物実験を終え「臨床試験を始める準備に入る」(同)。最終的には糖尿病の治療などに医療への応用を目指す方針だが、当面はサプリメントや化粧品として販売を加速させたいとしている。



シコニンとコンナルスを配合した保湿クリーム「フアルマS1」使用前(左)と使用後

コンナルスは皮膚中のコラーゲンの糖化抑制にも効果があるとみられることから、シコニンと合わせて化粧品原料としての展開にも乗り出す。コラーゲンの糖化による肌の弾力性や保湿力減少を防ぐ効果が期待される。一方、大阪ソーダ・富士色素が開発したシコニン分散液は「WAKI」の商品名で化粧品原料として供給を拡大する。さらにコンナルスを含めたオリシナルブランドの保湿化粧品「フアルマS1」を開発、美容室や歯科医院のルートなどを皮切りに販売を開始している。フアルマS1は30gで3000円(税抜き)、1年間で2万個、中期的には10万個を目標に販売を拡大する。

販売を開始している。フアルマS1は30gで3000円(税抜き)、1年間で2万個、中期的には10万個を目標に販売を拡大する。

大する」考え。主成分のシコニンはかゆみやアレルギーの原因となるヒスタミン分泌を抑える効果があり、動物、人への検証を通じてアレルギー性皮膚障害の治療及び発症予防に効果を有する。さらに男性型脱毛症の原因とされるアンドロステグレンジンドロンの合成を阻害する効果があり、毛髪、まつげの育毛にも期待されている。β-グルカンでシコニ

ンを包接してできる「WAKI」は富士色素が包接を担当、大阪ソーダが販売を担当する。さらに大手素材メーカーと組んで、WAKIを生地に染色し、肌のかゆみなどを抑える効果のある衣料製品の開発や、バイオベンチャー企業と組んで、シルク素材の研究も行っており、今後さらなる拡大に向けて、新たな企業とのパートナーシップを模索している。

新しに商品価値訴求

ライオン オールルケアが好

ライオンの濱逸夫社長は6日、都内で会見し、1～9月期の業績について「おおむね想定の範囲以内で推移している」との見方を示した。1～9月期の連結業績は、原材料価格の高騰やパブリックケア分野の費用増加などにより事業利益は減益だったが、固定資産売却益などにより営業利益は過去最高を更新、前年同期比21.3%増の262億円だった。衣料用洗剤分野では競争が激化、苦戦を強いられているが、

「短期的な状況で一喜一憂せずに新しい商品価値を訴求」することで需要拡大を図ると説明した。順調に販売を伸ばしているのが同社がトップメーカーとして市場を牽引



会見する濱逸夫社長

するオールルケア分野。中・高価格帯製品が伸長したことでもオールルケアの売上高は前年同期比で4.5%増の410億円となった。メントヘルス・ハミガキは同43%増、N ONIQデンタルリンスも同21%増と継続的に伸長した。オールルケアからヘルスケアにつなげていくオールヘルスケア

事業では歯みらしといったなく唾液検査口臭ケアサリ、歯ぎしサリを開発、さらに拡大を進め、外でも行政・流通も取り込「歯科」活動を加価値化を推く。生産面では応じてパブリックを新たに整備工場(香オンケミカル

理解深め共存共栄

中国の張玉蘭秘書長は、製品の使用、アロエベ



準「原材料標準」が品質、安心の3つを

米胚芽
全
ポーラ

ポーラ化成
芽米のグル
ミとの摂取に
ら水分が蒸散
り、バリア機
ことを確認し
顔だけではなく
も認められ、
どこかさつき
った見た目の
なかつたとい
果はオリーブ
売する商品を
「オー・オル
で活用してい
グルコシル
肌のバリア機
ミッドの前駆

日本衛生材料工業連合
会(会長・高野孝久二
「バイオ」社長)と中国
造紙協会生活用紙専門委

大